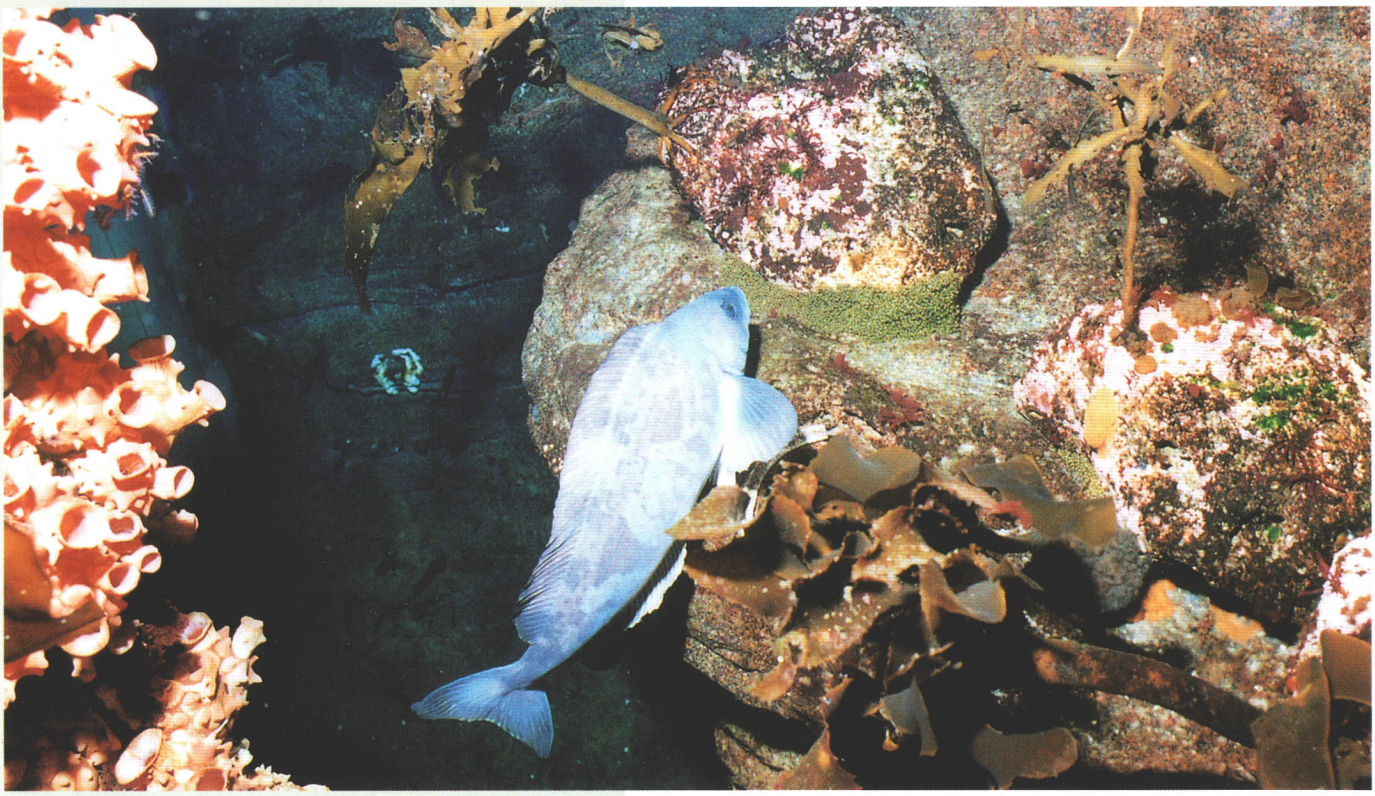
AMF CURRENT RIP
潮目の海

親潮の魚 ～ホッケ～

Fish of Oyashio Current ～Arabesque Greenling *Pleurogrammus azonus* ～ by Masamitsu Iwata



▲卵を守るホッケのオス
a male Arabesque Greenling protecting eggs

親潮水槽に沿岸性の強い北方系生物を展示しています。今回は、ホッケについてご紹介したいと思います。

ホッケは「開き」でおなじみで、脂がのって大変おいしい魚です。分布は広く、茨城県沖から北海道まで北日本の広い範囲で見られますが、特に北海道周辺に多く生息しています。未成魚は沿岸を回遊し、成魚になると定住性が強くなります。

北海道などの地元では様々な呼び名があり、体が小さく若いものは「ロウソクボッケ」、春に沿岸付近に大群で現れるものを「ハルボッケ」、大きく成長し岩礁の根などに定住するようになったものを「ネボッケ」、そして繁殖期に体の色が青くなったオスを「アオボッケ」といいます。このように産卵期に現れる特徴的な体の色を婚姻色とよびます。

現在、親潮水槽で展示しているホッケは平成十二年四月頃から飼育を始めました。最初に水槽に入れたときは全長二五㎝程度の大きさでしたが、夏の間にひとまわり大きくなり、秋には三〇㎝を超えるものが多くなりました。北海道周辺では九月中旬から十二月中旬に産卵がおこなわれますが、親潮水槽の中でも九月頃になると、コバルト色をした「アオボッケ」が一匹、水槽の岩の上に縄張りを作るようになりました。九月下旬になるとほかにも数匹が縄張りを作り、近くに寄ってくる魚を攻撃するようになりました。十月になるとそれぞれのオス

▲ホッケの卵 lump of Arabesque Greenling eggs